

「放射線管理講習会」に参加して

川崎市立多摩病院 画像診断部 新田 正浩

今回、聖マリアンナ医科大学病院にて開催されました放射線管理講習会に初めて参加させて頂きました。その内容は放射線業務従事者への教育や医療機器管理の事例検討、遮蔽計算、被ばく管理についてでした。また、ランチョンセミナーでは造影剤のリスクマネジメントについての講義を聞くことができ、とても充実した内容でありました。

その中でも特に印象に残ったことは放射線に対して過剰に反応を示す医療従事者がいることについてです。ポータブル撮影に際して他の患者様を処置していた看護師が被ばくするからといって病室から走って出て行くことや「撮影室には放射線が浮いていて危険なので入りません。」と言って撮影室に入るのを嫌がる看護師がいるようで、放射線に対して恐怖心を持ったり、間違った知識の医療従事者が少なくないことに驚きました。このように放射線を異常に恐れることは患者様に不要な不安を与えることになるので、診療放射線技師である私たちが他職種とのコミュニケーションを密にとり、放射線に関する正しい知識を理解して頂くことが大切だと感じました。

また、ポータブル撮影時の散乱線量や、TV室、血管室の散乱線量なども記されており、自分の被ばく量を再認識することができました。そして、被ばく管理について既定の部位へのフィルムバッジの着用が大切であり、誤使用による線量超過は問題となる。医療従事者の職業被ばくを正確に測定、評価するためにも、既定の部位に線量計を着用することの重要性を改めて実感しました。

今回の講習会を受講して、他職種との放射線に対する意識の違いや被ばく管理の重要性を学ぶことができました。また、これから患者様に検査の被ばくについて聞かれたときには、しっかりと納得のしていただける説明ができるよう被ばくに関する知識をより深めていきたいです。今回の講習会で学んだことを今後の業務に生かして、日々精進していきたいと思えます。

最後になりましたが、放射線管理講習会を開催していただいた神奈川県放射線管理士部会の皆様方、講師の皆様方に深く感謝申し上げます。

